



# マツが茶色に変色!!・・・松くい虫?

「松枯れが気になりますが、『松くい虫』とはどんな虫ですか?」とよく聞かれます。「松くい虫」という虫はいません。「マツノザイセンチュウ」が繁殖して松を枯らす病気です。原因がザイセンチュウだとわかる前は、ゾウムシやカミキリムシなどが原因とされていたので、総称して「松くい虫」と呼んだわけです。しかし、松枯れの原因が「マツノザイセンチュウ病」とわかってからも、法律ではまだ「松くい虫」の名前が使われているので、勘違いされています。被害がどのように起こるのか、そのメカニズムを図-1に示しました。

全国的には1970年頃から被害が増え始め、北上して被害を拡大し、1979年にピークを迎えました。宮城県では1975年(昭和50)に石巻市で初めて見つけ、1996年(平成8年)にピークを迎えて現在に至っています。名取市内でもちらほら見受けられます。2017年に宮城県事業で伐採したマツは約1万9千本(市町村事業で伐採したものを含めると伐採本数は倍近くにのぼると想定される)。名取市内では県事業と市事業を合わせて83本を伐採。先月、植栽地近辺でもオイスカが通報して4本伐採していただきました。かつては、「老木の衰弱した松に入るから若い木は大丈夫」とも言われていましたが、太さ2cmの木にも入る報告も見られました。いずれ植栽地も被害の脅威にさらされる可能性があります。

では、どのように対処していけばよいのでしょうか?植栽地では、ほとんどの苗木はマツノザイセンチュウ抵抗性苗を植えています。抵抗性とは、宮城県林業技術センターが県内の松枯れ激害地で生き残ったマツから、穂木を採取して抵抗性候補木として選抜し、それにマツノザイセンチュウを人工的に接種して生存したものを抵抗性品種として認定したクロマツで、11品種が認定されています。その品種同士を自然交配させてできたタネで作ったのが、抵抗性苗です。子どもである苗は完全な抵抗性にはなりませんが、遺伝的に抵抗性が付与された苗ですので被害の確立は低くなります。しかし、今後は、市民も加わって松枯れを発見し、正しい時期に伐採し、薬剤で正しく処理する必要があります。

<オイスカ緑化技術参事 清藤城宏>



マツの幹の中でマツノザイセンチュウが増殖するとマツが衰弱し、葉が茶色に変色する

樹齢12年、太さ6cm程度の森でも「松くい虫」被害が深刻な場所がある(東日本太平洋岸)

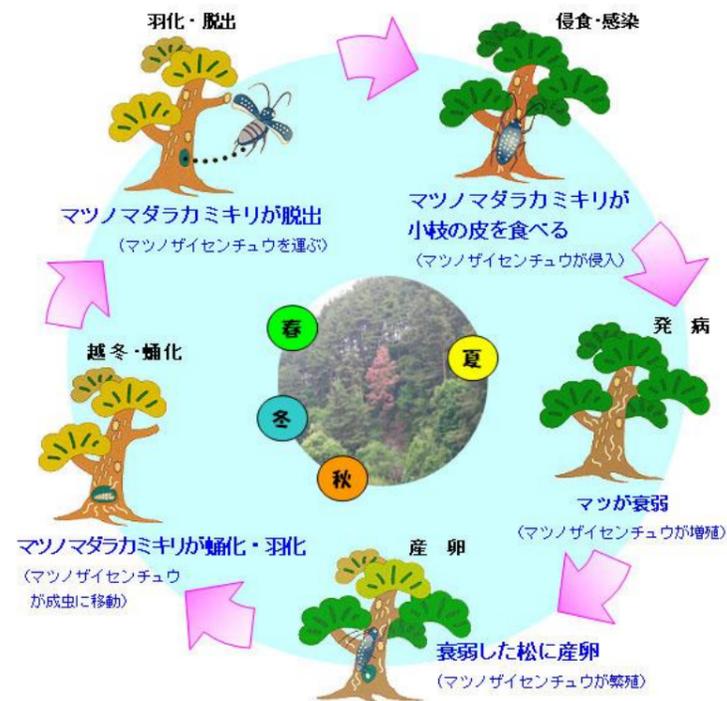


図-1 マツノザイセンチュウ病のメカニズム



写真-1 マツノザイセンチュウ  
わずか1mmのセンチュウ、明治時代  
に北米から運ばれた



写真-2 マツノマダラカミキリ  
マツノザイセンチュウを媒介にして  
病気を拡大していく

# ボランティア始動 溝切り! ツルマメ取り! 下草刈り!

冬の間お休みしていたボランティア作業が3月から再開します。今年の作業の中心は、溝切りとツルマメ草抜き取り、時々、下草刈りとなる予定です。



↓ツルマメ草抜き取り:クロマツに巻き付き、日光を遮断してしまうため、完全に除去します



↑溝切り:過度の湿度は成長を阻害するため、成長の悪い場所のみ溝を掘ります

人によって好きな作業が違います。子ども時代、どろんこ遊びが大好きだった人は「溝切り」にハマります。「ツルマメ草抜き取り」「下草刈り」作業は、クロマツ救出レンジャーとして正義感を味わえます!



広報室 林久美子

←下草刈り:クロマツに必要な日光を奪う雑草のみを刈ります。苗木が周囲の雑草から完全に頭を出すまで下草刈りは続きます

10/5 (土)

9/28 (土)

9/7 (土)

8/24 (土)

7/20 (土)

6/29 (土)

6/8 (土)

5/18 (土)

4/20 (土)

3/16 (土)

ボランティア募集中!!

時間は9時から17時!

詳細・お申し込みはこちら→ <http://www.oisca.org/kaiganrin/2994>

## 新パンフレット完成 手形で想いを伝えます

たくさんの手形で表現されたマツがひと際目をひく表紙に仕上がりました。このデザインはイラストレーターico.(いこ)さんによるもの。「名取市民の森」がとても多くの手による協力できあがっていることを伝えられるのでは?という発案からこのデザインとなりました。「想い」とともに、市民の森の将来像も伝わることを願っています。



### これまでの活動報告

	植栽本数	植栽面積	ボランティア数	講演会開催数・聴講者数	寄附金額(民間助成金)
2011~13年度	—	—	262人	75回 11,195人	240,478,577円
2014年度	80,182本	15.67ha	1,365人	30回 4,692人	100,263,158円
2015年度	55,084本	10.06ha	1,691人	30回 4,996人	101,024,711円
2016年度	56,037本	11.00ha	1,800人	26回 3,893人	89,502,022円
2017年度	71,945本	13.66ha	2,096人	30回 5,911人	84,045,449円
2018年度(1月末現在)	81,600本	16.32ha	2,213人	20回 3,974人	58,818,642円
合計	344,848本	66.71ha	9,427人	211回 34,661人	674,132,559円
2019年度(計画)	6,000本	2.01ha			

★国・県・市と結んだ整備協定面積 96.62ha への植栽は2018年に完了。県が植栽地として新たに整備する約8haへの植栽を2019・20年に実施予定